

飼料生産技術現地研修会「品種特性を生かした飼料生産」
を開催しました

令和元年 11 月 13 日
(独) 家畜改良センター岩手牧場

令和元年 11 月 8 日 (金)、(独) 家畜改良センター岩手牧場は、(一社) 日本草地畜産種子協会との共催により飼料生産技術現地研修会「品種特性を生かした飼料生産」を開催しました。

この研修会は、自給飼料生産の向上を図ることを目的に開催し、生産者、関係団体を中心に 33 名の方にご参加いただきました。

研修会では、仲西牧場長の挨拶の後、農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター 作物開発研究領域 飼料作物育種グループ 主任研究員 黄川田 智洋氏から、「東北向け優良品種『きみまる』とその特性～赤カビ発生程度の低い飼料用トウモロコシ～」と題し、『きみまる』の特性、収量性、病害抵抗性、特に赤カビ病について、他品種との接種検定結果を示しながら説明いただきました。続いて、農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 久保田 明人氏から「耐雪性・早生イタリアンライグラス『クワトロ-TK5』」と題し、東北地方でも栽培可能なイタリアンライグラス『クワトロ-TK5』の品種特性の説明と昨今の天候不順のリスク分散として、夏作トウモロコシと冬作イタリアンライグラスの二毛作栽培の紹介がありました。その後、事例報告として、当场業務課阿閉調査役より「優良品種の実証展示ほ設置について」、情報提供として、(一社) 日本草地畜産種子協会布野種子部長から「飼料作物優良品種の紹介」がなされました。

第 2 部では、現地研修として、当场の冬作イタリアンライグラス『クワトロ-TK5』の生産ほ場、チューブバックサイレージ調製場所及び試験ほ場に案内し、概要を説明しました。

参加者からは、「(きみまる) 赤カビに対して耐性が優れているのがよく分かった。」、「(クワトロ) 比較対象との差がグラフで表されていたので分かりやすかった」、「岩手牧場の取り組みがよくまとまっていて分かりやすかった」などの声をいただきました。

今後の研修会については、アンケートの結果「イネ科牧草栽培技術」、「トウモロコシ栽培技術」、「草地更新技術」、「雑草防除技術」について希望が多かったことを踏まえ、地域の皆様には有益な情報を提供できるよう来年度に向けて準備をしていきたいと考えております。

飼料生産技術現地研修会「品種特性を生かした飼料生産」

開催日時：令和元年11月8日（金） 13時30分～16時00分

場 所：（独）家畜改良センター 岩手牧場

共 催：（一社）日本草地区産種子協会、（独）家畜改良センター 岩手牧場

（1）室内講習



仲西岩手牧場長挨拶



北海道農業研究センター 黄川田 智洋氏の講演



東北農業研究センター 久保田 明人氏の講演

（2）現地研修



イタリアンライグラス「クワトロ-TK5」の生産ほ場



チューブバックサイレージ調製場所



試験ほ場